

「グローバル化の渦の中 新たなチャレンジで新市場へ」

HIRAODENKO

緊急 対談

創業 30 周年を迎え、
更なる躍進に向けて
舵を切るのは、2 代目
平尾社長だ。
タレントの
千堂あきほさんが
同社を訪れ、
社長に会社の軌跡と
今後の方針を伺った。
(2013 年 1 月取材)



タレント

千堂 あきほ

×

平尾電工(株) 代表取締役

平尾 秀樹

■創立 30 周年

千堂 まずは会社概要をお聞かせ下さい

平尾 電気設備工事全般を主体に弱電・LAN・TV・消防設備工事及びそれらの保守メンテナンスを手掛けております。1982 年に創業され、去年 30 周年を迎えました。私が先代より代表職を受け継いだのが今から 6 年前のことです。

千堂 設立から 30 年の間に、景況も大きく変化したと思いますが、その中で実績を築けたのは、何が要因でしょう？

平尾 一時、建設不況の影響を受けて厳しい状況に追い込まれたのですが、その際に事業内容を見直し、自社の得意な分野に絞ることで社内体制をシンプルかつ合理的に変更しました。それで一気に状況を好転させることができたのです。

千堂 それはどのような業務ですか。

平尾 店舗関係の電気設備施工やメンテナンス、改修工事に特化しています。お客様のニーズにしっかり耳を傾けつつ、オリジナリティある提案を行うサービスが必要であると考えています。お蔭様で、大型ショッピングモールのリニューアル

工事や工場、ビルなどで実績を築いています。

ております (笑)。

■電気のかかりつけ医

千堂 同業他社も多いのでは？

平尾 そうですね。スピーディーな対応とフットワークの軽さで他社と差別化を図っております。特に当社のお客様であるショッピングモールや店舗では、電気トラブルが起きれば業務に大きな支障をきたしてしまいます。ですから 24 時間いつでも素早く対応できるような体制を整えているのです。我々は、たとえるなら「電気のかかりつけ医」のような存在。その意識を持って業務に臨むことで、長らくお客様より厚い信頼をいただいているのです。

千堂 そうした意識がスタッフの方々にも浸透しているからこそ、今日の御社があるのでしょうか。

平尾 スタッフは 30 代～40 代が中心で、年齢が近いこともあり、社長と従業員という関係よりもっと身近な間柄ですね。定期的に“コミュニケーション”を図っ

■電気工事業×環境事業

千堂 今後の展開については、いかがお考えでしょうか。

平尾 当社では建物全体の省エネ化にも取り組んでおり、現在、照明設備の LED 化を全面的に推し進めているところです。今後は太陽光発電などの自然エネルギー関連事業に力を注ぎ、高付加価値な提案・提供を図って参ります。東日本大震災以降、原子力発電の安全性が問われる中で、発電設備の不足と発電網のインフラ構築が早急に解決していくべき課題となっております。私共電気業界は、この国難を救うのに最も近い位置にいます。自分の存在意義を問うた今、日本の新しい発電の仕組みづくりに参画し、夢はその仕組みを海外の発展途上国へ発信するプロジェクトに携わることです。

千堂 夢の実現に向けて、頑張ってください。本日はお忙しい中、貴重な時間をありがとうございました。



「スタッフさんに対しては一人ひとりの個性を尊重しながら、チームとしての一体感を大切にされているそうです。今後も皆さんで力を合わせて頑張ってください。私も応援しています！」

千堂あきほ・談



平尾電工株式会社

〒660-0055

兵庫県尼崎市稲葉元町2丁目4番9号

TEL:06-6419-5678 FAX:06-6419-8877

info@hiraodenko.co.jp

http://www.hiraodenko.co.jp/

代表取締役 平尾 秀樹

1969 年生まれ。1992 年に同志社大学法学部卒。同年に東洋不動産(現・東洋プロパティ)入社。1995 年より現職に就任。1 級電気工事施工管理技士・宅地建物取引主任者。

